

団体の概要 (NGO/NPO用)

団体名 クリスマス島クリーンアップ基金 (CCUF)
 ガイア総合研究所 (ガイア総研)

所在地	〒153-0062 東京都目黒区三田 2-10-22-304 クリスマス島クリーンアップ基金 TEL: 03 - 3715 - 8855 FAX: 03 - 3715 - 8855 E-mail: christmas@christmasisland-clean.org		
	〒259-1302 神奈川県秦野市南矢名 1 - 5 - 13 2階 ガイア総合研究所 TEL: 0463 - 75 - 3551 FAX: 0463 - 75 - 3726 E-mail: info@gaiavoice.net		
ホームページ	http://www.christmasisland-clean.org/index.html		
設立年月	2001年 4月 1日 (クリスマス島クリーンアップ基金) 2003年 4月 1日 (ガイア総合研究所)		
代表者	松島倫子 (CCUF) 小泉晨一 (ガイア総研)	担当者	日野雄策 (ガイア総研)
組織	常勤スタッフ 2名 (CCUF) 常勤スタッフ 2名 (ガイア総研) 個人会員 60名 (CCUF) 法人会員 23名 (CCUF)		
設立の経緯	<p>(クリスマス島クリーンアップ基金) 平成13年4月1日、キリバス共和国クリスマス島をはじめ太平洋島嶼地域のゴミ問題の解決と循環型社会構築の実践支援活動のために任意団体として設立。同年より、クリスマス島においてゴミの分別・回収システムの構築のための支援活動 (資源リサイクルシステム作成・提案、教育・啓蒙活動、備品提供等) をはじめる。</p> <p>(ガイア総合研究所) 平成15年、CCUFよりクリスマス島におけるゴミ分別・回収システムの実現に向けた具体的プラン作りの要請を受け、当プロジェクトに参画。環境教育・啓蒙ツールの制作、アルミ缶リサイクルシステムの企画・開発、循環型社会システムのためのエコミュージアム構想における企画提案を行う。</p>		

<p>団体の目的</p>	<p>(クリスマス島クリーンアップ基金) 太平洋島嶼地域に見合った廃棄物の分別回収・資源リサイクル化を実現するための普及啓蒙活動並びに実践に必要で効果的な調査指導を行う。キリバス共和国クリスマス島の実践活動を通して、島嶼国での廃棄物処理システム及び循環型社会形成のモデルケース確立を目指す。その後、他諸島においてのモデルケース実現へ向けた普及啓蒙活動も視野に入れて活動する。</p> <p>(ガイア総合研究所) 地球環境問題の解決を目指し、持続可能な社会を築くための具体的な政策および技術開発研究を行う目的で設立したシンクタンクである。</p>
<p>団体の活動プロフィール</p>	<p>平成 13 年度：基金設立、資源リサイクルシステム作成・提案、備品提供 平成 14 年度：住民参加清掃キャンペーン実施、ポスター・分別表配布、説明会実施 平成 15 年度：ガイア総合研究所参画。環境教育・啓蒙材料として、現地実践内容映像化、環境学習紙芝居の開催、講師派遣、実施指導強化(分ければ資源、混ぜればゴミ)、ゴミの写真コンテスト 平成 16 年度：住民参加清掃キャンペーン(ビーチクリーンアップ)実施、ヤシ殻燃料によるアルミリサイクル溶解炉の設置とアルミリサイクル・モデル工場の建設、資源ごみ回収拠点の設置、講師派遣、リサイクル学習紙芝居の開催、実施指導強化、エコミュージアム建設準備 平成 17 年度：ヤシ殻燃料によるアルミリサイクル溶解炉の試験稼働、アルミ成型技術者・工場労働者の指導・育成、エコミュージアム第一期分完成、環境学習エコゲームの開催、高校生からのエコレポート募集、環境教育用教材の作成(別途資料参照) 平成 18 年度：ヤシ殻ほかバイオマス系燃料の利用に基づく新規事業の開始、映像・紙媒体を利用した近隣島嶼国を含めた教育啓蒙活動実施、エコミュージアム第二期分完成、環境教育用教材の配布</p>

活動事業費(平成17年度) 6,189,181円

団体名：クリスマス島クリーンアップ基金
ガイア総合研究所

担当者名：日野雄策（ガイア総研）

政策の分野

- ・ 廃棄物の分別、リサイクル
- ・ 資源の有効利用

政策の手段

- 制度整備及び改正 : 島嶼地域および島嶼各国のリサイクル制度の基準整備
- 予算・資金措置 : 各島及び海洋地域におけるリサイクルシステム整備のための活動支援
- 調査研究、技術開発 : 資源回収船（リサイクルボート）定期就航のための調査・研究・開発
- 環境教育・学習の推進 : ごみの分別、リサイクルの基礎的な環境教育・学習の推進
- 国際環境協力 : NGOの海外での活動及びネットワーキング

政策の目的

島嶼地域に持ち込まれる物資から発生するゴミを分別回収し、地域のソフトエネルギーによるリサイクルシステムを構築するとともに、資源の回収を行う船舶（リサイクルボート）により分別された資源を回収する。それにより、島嶼地域のゴミ問題を解決するとともに、海洋地域規模でのリサイクルシステムの確立と、持続可能な社会の構築を目的とする。

背景および現状の問題点

島嶼地域に持ち込まれる物資には、そのほとんどに包装資材や容器が含まれており、それらはリサイクルされることなく、また島から持ち出されることなく、ゴミとして蓄積されているのが現状である。そのため、島という限られた土地においては、ゴミの集積場にまつわる問題が起こるとともに、各種ゴミによって島の環境が破壊されることも否定できない状態である。このまま、島嶼地域においてゴミ問題に対する解決策が図れない場合、ゴミの処理に苦慮するばかりか、生活環境や島の自然環境、ひいては海洋環境にまで悪影響が及ぶ恐れが生じる。

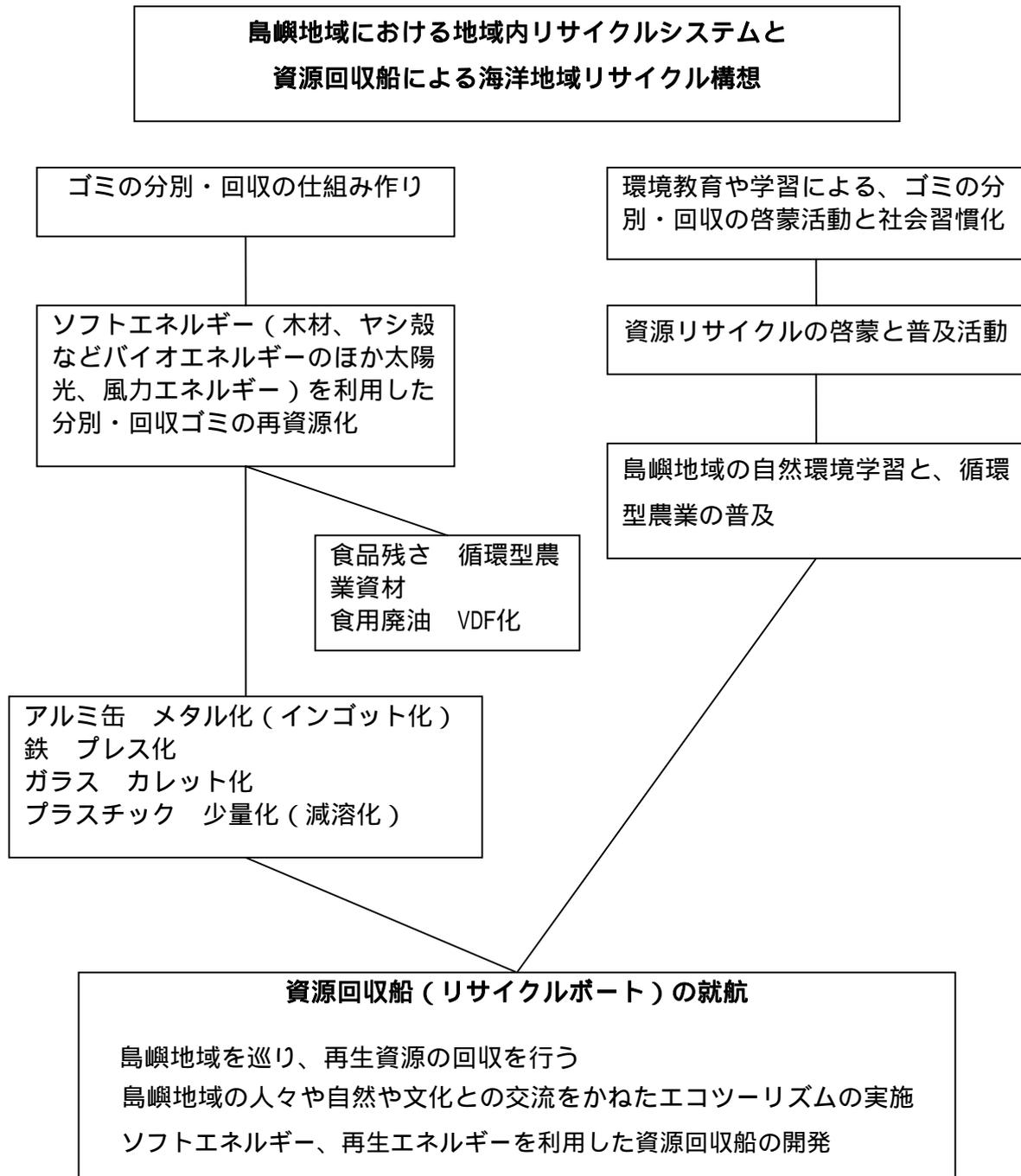
政策の概要

島嶼地域において、ゴミの分別・回収の仕組みを作るとともに、環境教育や学習により、ゴミの分別・回収・リサイクルの啓蒙活動を行い、地域の社会習慣として位置付ける。分別・回収されたゴミの中から、アルミ缶については地域のソフトエネルギー（木材、ヤシ殻などのバイオエネルギー）を利用した溶解炉によってメタル化（インゴット化）し、また鉄についてはプレス化、ガラスについてはカレット化、プラスチックについては少量化（減溶化）して安全に保管する。また、分別されたゴミの中で、食品残さは循環型農業資材として活用し、食用廃油はVDF化して燃料として再利用を図る。これら再資源化に必要なエネルギーについても、ソフトエネルギー（太陽光、風力エネルギーなど）を利用することを目指す。

島嶼地域を巡回就航する資源回収船（リサイクルボート）を設け、各島々で分別保管されたリサイクル資源を回収し、地球規模での再利用へとつなげていく。

資源回収船（リサイクルボート）については、島嶼地域の人々や自然や文化との交流をかねたエコツーリズムによる一般乗船者を募り、海洋地域におけるリサイクルシステムの確立とともに、環境教育や学習のフィールドワークの場としても活用する。

政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）



政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

実施主体

クリスマス島クリーンアップ基金（パイロット事業の実施とデータ蓄積、教育・啓蒙活動）
ガイア総合研究所（地域内及び海洋地域リサイクルシステムの調査・研究・開発）

提携主体

株式会社 佐野環境都市計画事務所（島嶼地域各国の制度・政策の調査と調整）
神奈川県横浜市中区尾上町 1 - 4 STビル 8階 TEL 0 4 5 - 6 6 3 - 4 5 8 5
株式会社 サトウ（リサイクル事業者）
神奈川県茅ヶ崎市萩園 1 0 7 4 TEL 0 4 6 7 - 5 7 - 1 0 7 4

協力団体

日本リサイクリング協会
アルミ缶回収協会
日本カレット協会
プラスチック処理促進協議会

政策策の実施により期待される効果（具体的にお書きください）

島嶼地域における環境教育・環境学習の普及。
島嶼地域におけるゴミ問題の解決。
島嶼地域におけるソフトエネルギー（バイオエネルギー）の活用。
海洋地域におけるリサイクルシステムの確立。

上記の実現により、島嶼地域の自然環境の保全が期待できる上に、地球規模での省資源とCO2の削減が期待される。

その他・特記事項

日本にある小さな島々を含め、世界の島嶼地域において、物資は持ち込まれるが、そこから発生するゴミを持ち出す手段の積極的な調査・研究は行われていないのが現状です。私たちは、小さな島にこそ大きな地球環境問題が横たわっていると考え、クリスマス島ではじめた地域内リサイクルシステムをパイロット事業として、この提案をいたしました。

今回の調査・研究事業の行き着く先は、地球温暖化でいち早く影響が出るであろう太平洋島嶼地域が抱える廃棄物問題（リサイクル資源の放置）の解決です。地球温暖化の影響を、手をこまねいて待つのではなく、島嶼地域としてできることを行いたいという島民の思いを受け、海洋地域におけるリサイクルシステムの必要性を強く感じ、この政策提言に至りました。

海洋地域におけるリサイクルシステムの構築には、島嶼地域を抱える各国の環境に対する政策・制度等も比較検討し、統一的な取り組みを整備することも重要です。太平洋地域における統一的な環境への取り組みの整備をする過程で、環境を基軸とした各国のより深い地域交流が図れると同時に、地球規模での循環型社会の構築に近づくものと考えます。